

ブッポウソウ  
(撮影：香西宏明)



## めざせ!ブッポウソウ博士

宇治小学校児童

「くちばしはオレンジ色で体は青緑色」「羽根の下に白いもようがあるよ」「カエルによく似た鳴き声なんだ」「飛びながら昆虫を捕まえて食べるんだ」児童たちはまるで、ブッポウソウ博士。

校舎の周りには田んぼが広がり、山々に囲まれた宇治小学校は、全校児童14人。6年前から野鳥の観察を行っています。

2年前の初夏、巣箱にブッポウソウがつかいで入っているのを確認。その美しさに感動した児童は、この鳥を大好きに。それからというものの、ブッポウソウ専用巣箱をたくさん作って学校の周辺に設置し、観察を続けていきます。

ブッポウソウは、ハトより若干小さく、アジア東部からオーストラリアに分布し、日本では本州、四国、九州に夏鳥として飛来し、局地的に繁殖しま

す。数が全国的に減少しており、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されています。

宇治小では3・4年生の総合学習を中心に全校で観察に取り組んでいます。4月中旬に巣箱を取り付け、森林インストラクターの小見山節夫さん(70)「浜町」を招いて年に数回、野鳥の勉強会も開きます。小見山さんは「宇治町にはブッポウソウが繁殖する里山の豊かな自然がたくさん残っています。この自然を守ることは、自分たちの生活する環境を守っていくことです」と児童たちに伝えていきます。

大府史明君(6年)は、「木製の電柱にキツツキが空けた穴を利用して巣を作ったりするけど、電柱がコンクリートに変わって巣作りができなくなり、数が減少していることを知った。周りには豊かな自然があるので、僕たちの作った巣箱で育ってくれば」。また、赤木夏奈さん(5年)は「こんなにきれいな鳥が身近にいる。地域の人に私たちが勉強したことを教えてあげたい」とにつこり。

3・4年生担任の堀田明美教諭(6)は「子どもたちはこの活動で、身近にいる鳥をいつも意識しています。観察力や「なぜだろう」といった探求心が育っているのでは。大きくなって自然を大切にする心を持ち続けてほしいですね」と話します。



毎日の観察を欠かさない児童たち



# 岡山県生涯学習大学主催講座 ～健康・スポーツ「生きがいづくり」～

県教育委員会では、県民の多様な学習ニーズに応えるため、「岡山県生涯学習大学」を開設しています。その主催講座として『専門教養コース、健康・スポーツ“生きがいづくり”』を実施します。

- 会場：順正短期大学
- 受講資格：原則として、県内に在住および勤務し、学習意欲のある人（定員：40人）
- 受講料：1000円（受講初日に集金します）
- 申込期限：8月6日(月) ※定員に達するまで受け付けますので、お気軽にお尋ねください。

## 【日程・講座内容】

8月	講座内容・講師（順正短期大学）	
	午前（10:00～12:00）	午後（13:00～15:00）
27日 (月)	脚・腰・頭の活性化のために 教授 塩見優子	美容と健康について～あなたの身の回りは大丈夫です？～ 教授 渡邊一正
28日 (火)	身近な運動～ウォーキング～ 教授 池宗和雄	笑って楽しく使いましょう “からだとあたまとこころ” 非常勤講師 久保園明美
30日 (木)	認知症とその予防 教授 吉田健男	陶芸を楽しむ 准教授 前嶋英輝
31日 (金)	健口講座～ <sup>ごえん</sup> 誤嚥予防と健口体操～ 准教授 吉井敦子	ストレスと上手につきあおう 教授 池本貞子

■問い合わせ・申し込み 順正短期大学「岡山県生涯学習主催講座係」(TEL)23517)

## 編集後記

先日、ホテル撮影のため、福地川に出かけました。今年もたくさんのホテルが舞い、幻想的な光景にしばし時間を忘れてしまいました。  
減少傾向にあった福地川のホテルも、近年徐々に増えてきているそうです。地域の皆さんや福地小学校の児童たちが続けている、川の清掃など、保護活動の成果のおかげでしょう。  
また、今月号で紹介した宇治小学校の児童たちは、ブッポウソウの巣箱作りや

観察を通じて、自然を守ることの大切さを学んでいます。  
山や川など、豊かな自然に恵まれた高梁。日ごろは自然への感謝も忘れがちになりますが、こうした豊かな自然の中で過ごせることは、とても幸せなことなのだと思います。  
6月は環境月間。大切な自然を守るために自分ができることは何か、皆さんも考えてみませんか。(YM)

## まちの伝言板

## 童謡まつりイン高梁 7月7日(土)



高梁市童謡まつり企画運営委員会  
委員長 亀田照子さん

昭和60年に高梁を訪れた元日本童謡協会会長・故中田喜直さんが、市内の音楽関係者に話した「高梁は童謡の似合う町」との言葉がきっかけとなり、高梁の美しい自然と風土の中で童謡を通して心豊かなまちづくりの取り組みが始まりました。  
さまざまな取り組みの中の一つが「童謡まつりイン高梁」。7月1日の「童謡の日」の前後に毎年開催されており、今回で22回目。前回から出演団体関係者で企画運営委員会を組織し、出演団体が主体となった催しの企画立案や運営を行っている

ます。  
今回は、保育園児から大人まで幅広い年齢層の合唱団、コーラスグループなど、初参加の2団体を含む計23団体が出演。日ごろの活動の成果を発表します。  
このほか、「高梁で生まれた新しい童謡」も発表されます。これは、前年の市文学選奨童謡作詞部門の優秀作品に市内の音楽家が曲をつけるもので、これまでに23曲が発表されています。  
「童謡にはすてきな歌詞、素晴らしい曲のものが多くありますが、最近は童謡を歌う機会も少なくなってきました。童謡まつりはどなたでも入場できますので、ぜひ会場で懐かしい童謡、知らない童謡に耳を傾け、一緒に口ずさんでいただければ」と委員長の高梁市童謡のまちづくり推進委員会事務局（教育委員会高梁分室内）(TEL)20287)まで。

※10ページに関連記事。